

意見交換会実施報告書（地区コミ単位）

【1班】

地区コミ	里地区コミュニティ協議会	参加人員	34人
開催日時	平成26年 5月30日（金） 17:30 ～ 18:45		
開催場所	里公民館		
出席議員 （担当）	議員名	出欠	担当
	谷津 由尚	○	記録
	瀬尾 和敬	—	
	江口 是彦	○	
	議員名	出欠	担当
	福田 俊一郎	○	
	福元 光一	○	進行
	徳永 武次	○	

意見交換の内容

（凡例 ◆地区の意見 ◇議員の意見）

1、支所の存続について

《概要》

- 防災機能と地区振興の機能等を、逆に今よりも持たせた支所機能とすべきではないか。離島はいざという時に市職員に担ってもらうところが非常に大きい。（警察・職員以外に）
- ◆ 里町はUPZにも入っている。また、甑大動脈の戦略（蘭牟田瀬戸架橋等）においても、圧倒的に有意義な役を担っている。また将来に亘り持続可能なもっとも大きな集落と考えている。
 - ◇ 第3次定員適正化方針の中では、平成32年に職員数1,000名以下とすることを目標としている。これは人件費で85億円という、財政運営プログラムで計画した目標に向かって進めなければならないとしている。このため、支所だけでなく本庁を含めて事業の統廃合やスリム化を図って行かなければならない。このことは市全体の共通課題。その中で、支所の役割については、それをカバーする体制が必要となる。市民による災害サポーター制度等をつくりながら機能低下を回避する方法を取っていく方針である。
 - ◇ いざという時は、市民にお願いしなければならないことが多いが、支所の機能を存続できるように当局に要望していく。
 - ◇ 地域防災計画に対応できる職員数はどうかということもある。イベントもある。市としては財政運営プログラムの中で進めて行こうとしている。ただ、防災について自助でやれない状況等は明確にしなければならない。これらの課題が多すぎて、決めきれない要素が多い。今後、しっかりとした話し合いを行い議論を進めたい。合併して10年、スケールメリットを生かしていかなければならない。

2、本所と支所のコミュニケーションの改善要望

《概要》

- 本庁と支所のコミュニケーションが非常に悪いと感じられる。本庁判断の案件は、支所の職員に知らされていないケースが多く、市民として戸惑うことが多い。地元の職員の意見が政策にまったく反映されていなく、このことは地元のあるべき姿にならないのではないかな。
- また、個人情報であっても、福祉に関わることは、必要最低限のことは情報を開示して欲しい。そうでなければ万一の事態に対応できない。
- ◇ 具体的な例は？
 - ◆① 案内所を拡張する件。決定した内容がフィードバックされない。待合所のデザインに問題を感じる。
 - ② 福祉関係者で個人情報を得られないという問題。いろいろ地域のサポート活動をするにあたり、個人情報を教えていただけなかった。など。

- ◆ 地元の人のいろいろな質問に職員が答えられない（判断できない）場合が多い。支所にある程度の権限を置けばこれは解消する。地域づくりの人を置くなど、風通しが良くなる方策などもある。もっと考えなければならない。
- ◇ 地域づくりは地域がいちばん分かっている。甑の中で一番どこが優先かはわからないが。そうだから地域のことは地域で判断しなくてはならない。予算を組む際に反映されるかである。今後は里だけではなく、それぞれの地域がそのような時期にきていることを認識する必要がある。

3、猫の適正な飼育条例について

《概要》

甑島では近年、野良猫の糞の被害が多くなってきている。猫の適正な飼育条件を定めた条例制定により環境が改善された事例もある。甑島の環境維持のための条例制定をお願いしたい。

- ◆ 地域のつながりが悪くならないようにしなければならない。奄美市の条例を参考にしてほしい。
- ◇ 奄美市の条例制定には、アマミノクロウサギという天然記念物の生態系を守るという背景がある。本市の場合、そのような生態系はない。ただ、将来を考えた場合、観光地としての甑島の環境維持にどうしても必要な場合は、地域限定で何らかの方策を考える必要はあるだろう。もう少し時間をかけなければならないと思う。
- ◇ 4年ほど前、薩摩川内市議会でもこれを取り上げたことがあった。非常に難しい状況だった。野良猫は餌やり行為で増えて行く。野良猫の去勢の問題等の解決策は非常に難しい問題である。もう一回、困っているところの現場の実情を考えたい。勉強したい。

4、高速船の運賃について

《概要》

高速船が4月から運行を開始した。里では、これを機に甑島の観光資源の改善を図り、価値ある島にできるように努力をしたい。そんな中で、高速船の運賃はやはり高く、このお金を出すのであれば、「甑島ではなく別の場所へ」という話になるのではなか。もう少し運賃を値下げすることの検討ができないか。

- ◆ 甑島館で以前に大ロツアールがキャンセルになった。理由は船賃である。これだけ出すのだったら佐賀の呼子に行くということで変更となり、呼子に行かれた経緯がある。
長崎の離島航路について意見交換をした。あちらも生活航路となっている。フェリー代は、1時間の乗船時間であるが1,000円。安い。甑島を本当の観光地にするには、船賃の減額を何とかお願いしたい。
- ◇ 国の補助航路だから安くできないとの当局の見解である。島民の足を考えてぎりぎりの値段ということである。今後も何とかいい手が無いかを考えている。
- ◇ 甑島の観光地化に向けての素晴らしい考えに感謝する。しかしながら国の補助航路のため、これ以上の値下げが認められない状況である。

5、本土側高速船発着所周辺のにぎわいの創出について

《概要》

川内港待合所は立派な施設が完成したが、周辺に農産物販売所等の施設があればもっと活気が出ると思う。

- ◆ 島に来られた方々に対し「昼食難民」という言葉を残してしまったことがあり、私たちが大いに反省すべき課題である。島の改善も大きな課題であるが、母港である川内港の周囲において、今後、にぎわいの創出ができないか考えて欲しい。

◇ 今後はいろいろと組み合わせた中でイベントを実行しながら進めて行きたい。

6、その他

◆ 合併後10年が経過した。川内の漁協と、甑島とが疎遠のままである。何とか一緒に事業ができるようにしたい。(川内産のきびなごなど、貢献できる部分はたくさんあると思う。)

◇ 持ち帰り検討する。

【要望のまとめ】

1、川内漁協と甑漁協との業務提携など、事業のあり方について検討必要。